

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会（面倒の中身が変わった）昔から面倒や面倒臭い事はあった。しかし、それを言ったら生活が出来ないといっても過言ではありません。かまどで火をくべてゴハンを炊いたり煮物を煮、風呂もマキで炊く、洗濯は手洗い、暖は炭で、涼はうちわだ。この面倒を解決したのが、戦後の電化製品の発明だ。つまり、「面倒が発明の母」となり、人々は面倒の解決に「お金」が必要となった。金で解決である。

日常の面倒が少なくなり、お金で時間を買うことにもなり、時間的余裕は出来たが、お金の需要は高まった。その結果、専業主婦が減り、共稼ぎ夫婦が増加した。クレジットやローンの返済が終わるころには、買い替え需要が待っている。お金を貯めて買う時代はインフレによって不都合となり、クレジットやローンで先に物を手に入れ、お金が後で追っかける。いつでもお金に追い廻される社会となった。

面倒な事の大半をお金で処理をする近代になっても、更に面倒臭いと言う人が増加した。それは時間の短縮ではなく、早い話が何もやりたくない人々である。これは「面倒＝やりたくない」である。しかも、それが通るかどうか、いや通してしまうのです。時には家族や周りが迷惑することもあります。日常生活が面倒臭いとなると、趣味や娯楽に興味がありません。それはもっと面倒な事だからです。

ところが、コロナが発症して2年を経過したら、その面倒がまた変化しています。都市から地方へ移住する人、高齢となって田舎暮らしを望む人、緊急事態で出歩けなくなった人々。一応に、今までの便利な生活から不便を余儀なくされます。つまり、日常的不便が多く面倒を発生させます。しかし、この面倒に立ち向かうこと、つまり「面倒を楽しむ」ことに置き換えているのです。家事をするのも面倒だったのが、家で三食作らなければならない不自由さが、料理を作る楽しみに変えた如くです。

自給自足（全ての日常が昔同様面倒で出来ている。但し、お金は余り掛からない）をしながら、尚且つ趣味や習い事、地域の仕事、ボランティアなど多彩に行動して、面倒や面倒臭いを楽しんでいるのです。たった一度の人生を、好きに生きる楽しさとし、悔いのない人生を目指す人が、コロナ禍で増えています。

八幡中学校の校区と生徒数

八幡中学校は、浜松駅の北側に南北（約4キロ）東西（約1.5キロ）の範囲を基本的校区としている。

この校区は、今のアクト地区自治会（野口町・船越町・常盤町・八幡町・早馬町・東田町・馬込町・新町・松江町・板屋町）に相当していた。しかし、その後は細島町（一部）茄子町・新津町・木戸町・十軒町（一部）・早出町（一部）などが加わり、校区の範囲は広がっている。

一方、生徒数はピーク時（団塊世代：約400名）から比べると、校区の範囲が拡大しても130名位である。それでも一時期から比べれば徐々に増加している。また、学区内生徒と学区外生徒の内訳に於いては、20%前後が学区外より通学している。近年は中学校の評判が良く、学区外からの応募者が多く、抽選により入学を決めるなど、その選考に苦慮しているという。

現状としては、アクト東地区の都市計画により、一時は人口も減少し、それに伴い生徒数も減少していたが、現在はマンションやビルの建設が進み、人口も増加し生徒数も増加傾向にある。

また以前と異なるのは、1クラスの生徒数であろう。ピーク時には1クラス55～60名位であったが、文部科学省により現在は40名（標準）とされているが、基本的には1クラス35名へと移行する予定である。反面、教員の不足が懸念されている。

八幡中学校同窓会事務局
代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928
浜松市中区板屋町612-402
FAX：(053)489-6391
ironman29@hotmail.co.jp



八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行しています。